

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.78
2018.5



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

背中を膨らませた“キビタキ”

カエデ類やブナなどが次々と葉を広げ始めた瑞々しい森の中で鮮やかな黄色がひときわ目をひくキビタキのオスに出会いました。他には野鳥の姿も声もなく、キビタキは目線より少し高い位置の木の枝を自由に飛び移りながら軽快にさえずっていました。突然、別の野鳥の地鳴きがあたりに響きました。それまでののんびりムードとは一転、軽快にさえずっていたキビタキは上空を気にしながら身をかがめると同時に、背中黄色い部分を一気にぷくっと膨らませました。残念ながら地鳴きの声の主は見つけれず、一連の行動が外敵への警戒だったのか、はたまたメスへの自己アピールだったのかは定かではありませんが、優雅にさえずる姿とは対照的に、緊張感の漂う違った一面を目にすることができました。これまでは発見しただけで観察したつもりになっていましたが、“じっくり観る”ことで見慣れたはずの光景にも新たな発見があることに改めて気づかされたひとときとなりました。

“What is Kibitaki?”

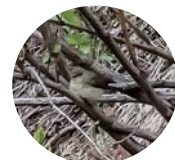
「オスの黄色が目立つ夏鳥」

ヒタキ科

全長：約 13.5cm

分布：日本全土

動物食が強く飛んでいる虫などを捕え、英名はフライキャッチャー。鮮やかな黄色が目立つオスに比べ、メスは全体的に地味なオリーブ色。くちばしの根元の毛は口から昆虫がこぼれるのを防いだり、昆虫のはばたきから目を守ると言われている。



(地味な容姿のメス)

(参考図書:「みる野鳥記 11 キビタキのなかまたち」)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



箱ヶ森の右の山は南昌山、その隣のピークは毒ヶ森

網張から見える 山ノート

11 ページ目 箱ヶ森

箱ヶ森

標高：865.5m

位置（網張VCから）：南南東

登山適期：4月下旬～11月中旬

特色：志波三山の一つ。盛岡市と雫石町を境にする山で、猪去沢から登る南ルートと北ルート、つなぎ温泉から登るつなぎルートが整備されている。ブナの群生が美しい山。



猪去沢より、二つに分かれ陥没したように見える山頂が特徴

芽吹いて間もない若葉の色は、とりわけ目に優しく映ります。箱ヶ森周辺は、杉の植林地の深い緑と自然林のほんわかした萌黄色がうまく調和し、品のいい包装をまとっているようでした。猪去沢から未舗装の林道を進むと、北ルート・南ルートの順に登山口が現れます。登山をサポートする標識は各所に設置されていますが、中には老朽化がかなり進んだものも。また、ルート上に倒木の通せんぼや自己アピールする笹、張られたロープにしがみつきの急登もあるので、ちょっとした冒険気分が味わえます。そのかいもあって、清涼感のあるブナ林をはじめ、カタクリやエリンソウ・スミシの仲間など春ならではの出会いがあり心が満たされました。晴天祈願や雨乞いなど信仰の山として地元の方々に崇められてきた箱ヶ森。静かに山と向き合いたい方にはお勧めのエリアです。



林床に目を落とすと、常緑低木樹のツルシキミが見事に花を咲かせていた。

オトメエンゴサクの蜜に夢中なヒロードツリアブ。ハチドリみたいでラブリー。



zzz...



山頂の苔むした権現獅子

ほんとうに志波三山の一つ？

「東根山」「南昌山」とともに、以前は「箱ヶ森」の南東にある「赤林山」が「志波三山」に数えられていたそうです。「岩手山」は25個以上の火山群の総称。「志波三山」も連山全体を差す呼称として捉えた方がよいのでしょうか。

Amihari Birds

アミハリ・バース Vol. 2 1

アカハラ

科名：ツグミ科
 全長：約23.5cm
 生態：夏鳥（本州中部以北）
 分布：日本全国

鳴き声

キョッキョッ、ツイー、
 キョロンキョロリン、
 ツリリリー



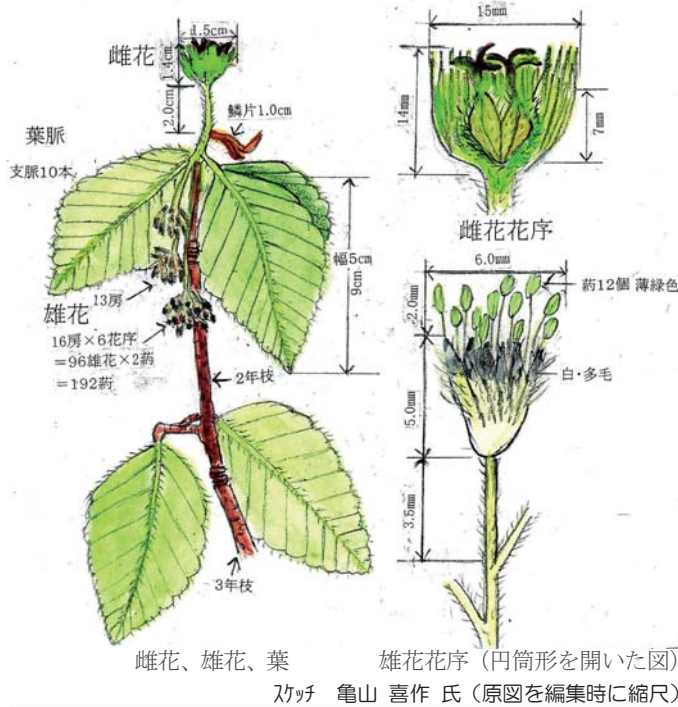
5月初旬、網張薬師神社の境内前で大きめの鳥たちが地面をついばんでいるのを見かけました。正体はツグミのグループと行動を共にする数羽のアカハラでした。ツグミの仲間は渡り鳥タイプが多く、アカハラは繁殖期には本州中部から千島列島・サハリンにかけて、そのシーズン以外は本州中部以南で過ごします。その後、アカハラの姿は見かけなくなったので、ツグミと一緒にもっと北を目指して旅立ったものと思われます。

高原の歌い手という顔をもつアカハラ。さえずりは木の高いところで行う事が多いそうですが、普段の生活圏は低地を好みます。巣も低い場所に作ってしまう事から、外敵に襲われる事も多いのだとか…。ちょっと不器用そうな感じに親近感を覚えます。

喜作先生の自然スケッチ



安比国有林中牧場・ブナの駅手前 300m・舗装道上り坂の右路肩にあるブナ孤立樹
2018.5.13 採取



“ブナについてのあれこれ”

私は秋田県大館市と北秋田市、阿仁の奥羽山脈、岩手県の雫石町、滝沢市、旧玉山村、旧川井村の北上山地のブナの着花調査を 32 年間 23 箇所で行っている。今年、上記のエリアではやや豊作である。指数上では「1」は無着花、「2」少しだけ、「3」は中ぐらい、「4」はやや豊作、「5」は豊作ないしは大豊作とすると、今年は「4」である。「3」だと着花はあるが、9月に着果は望めない。なぜなら5〜7月に全てブナツツクムシ(昭和48年亀山が新発見)によって落果してしまう。「4」だと9月に着果が望めずツツクムシやカサネミ等が大喜びすると思われる。省みると昭和35年頃まではブナは北東北で無尽蔵と言われ、営林署は林道開設と相まってブナを伐り進んだ。しかし、昭和40年頃には各地で底が見えてきた。

昭和48年網張から松川にかけてブナの原生林が伐り進められ、それを契機に自然保護団体が誕生。また所有権の係争があった葛根田流域でも裁判で林野庁が勝訴し、そこにもチェーンソーの刃が入っていった。その当時、ブナにあらずんば木でないという風潮があった。私も10人くらいの人から何でブナにそんなに拘るのですかと言われた。それに対し「ブナ林は懐が深くて、ミズナ、ツバキ等と共生し、幹が白っぽく、若木でも老木の貫録があり、葉も澄んだ緑色で小さく可愛い。その実は生でも食べられるし、材にしてもカサネミとかカサネミ等飽きがこない」と答えた。今でもそう思っている。ブナについて私は着花・果実(3年ごと)が流域ごとに異なることに気づき、それまでの全国一斉では無いと指摘し、林業試験場でもその線に沿って全国ネットワークで調査が始まった。また60年生で初めて着花するとされていたのを27年で着花し、40年で大着果するというようなことを発表した。今は各方面でそのように認識しているようである。

私は、今年も22箇所約600本の個体を調査し終えた。調査は楽しいが、まとめるのが苦手である為、資料が積み重なっていく毎日である。
(亀山記)

亀山 喜作氏の略歴

昭和37年4月から当時の秋田営林局象潟担当区を皮切りに各地の営林署、東北育種場に勤務、長い間、東北の森の変化を見守ってきた。現在「岩手植物の会常任幹事」「岩手大学構内観察会講師」「滝沢植物の会会長」として多忙な日々を送っている。秋田県出身。

岩手山地区パークボランティアの素顔(その3) 国立公園を支える陰の力

十和田八幡平国立公園の岩手山周辺を活動エリアとする環境省の岩手山地区パークボランティアが産声を上げたのは今から13年前、網張ビジターセンターが新たにオープンして僅か一ヶ月後の平成17年2月のことです。発足時の33名のボランティアは全て屈強の男性ばかり。しかしながらビジターセンター行事の一般参加者は圧倒的に女性が多く、女性ならではのきめ細やかなサポートが求められるようになり、現在では9名の女性がメンバーとして活躍しています。今回紹介するのは、1年前から活動に参加している吉田 成子さん。

- ・「ご出身は?」・「北上市生まれ、でも転勤族だったので岩手県内を転々としました」。
 - ・「ボランティアに参加したきっかけは?」・「たまたま滝沢市役所でパークボランティア募集のチラシを見て直ぐ決断しました。以前に冬の七滝で八幡平のボランティアの人が献身的に雪の階段を作っているのを見て感動したことも記憶にあったからでしょうか」。
 - ・「登山もお好きそうですね?」・「大震災の後に盛岡山友会の初級登山教室に入り、急がずゆっくりの登山を楽しんでいます」。
 - ・「実際のボランティア活動をやってみてどう感じましたか?」・「おじさんが多かったのでびっくりしました。やはり女性ならではの気遣いが必要なケースもあると感じました。一般参加者とは楽しく仲良くおしゃべりすることに心がけています」。
 - ・「お気に入りの山は?」・「鞍掛山です。標高は低いけど登るたびに新たな発見があるし、知り合いも増えてきました」。
- 吉田さんはこの他にも早池峰グリーンボランティアにも参加。さらに登山の合間にコーラス活動と水泳も行う活動派なのです。



4月8日(日)

根開きのフナノ森で春を探そう



「木の生命力を感じた、行事に参加して元気をもらえた」

一般参加者数 13 名。「かんじき」を履いて急坂をウサギ平まで歩き、木の根開きの謎解きや 16 種の冬芽観察を楽しみました。

4月30日(月)

早春の網張自然観察会



「野鳥の声を聞いて、その正体分かるようになりたい」

一般参加者数 20 名。初夏を思わせる日差しの中、植物や野鳥をゆっくり観察しました。スキーグレンデに移動して行ったゲームも大盛況！

自然観察会報告

写真提供：岩手山地区パークボランティア 阿部丕顕氏

5月12日(土)

鞍掛山麓・春の花紀行



「ヒトリシズカの姿が印象的、今度はフタリシズカを見たい」

一般参加者数 23 名。写真家の工藤宏さんの案内で、じっくりと花の観察。この日に会った花の数は 30 種以上。ルーペを使って見た個性豊かな花のつくりに感動しました。

*インフォメーションコーナー

詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで



国立公園で楽しむ親子の自然体験プログラムⅠ

「フログガイドと姥倉山に登ろう」

6月16日(土) 8:00~14:30 網張温泉駅-セツター-前集合

定員：親子 10 組 20 名 参加料：大人 1,800 円 小学生 1,000 円

講師：米澤 邦彦氏、三浦 明夫氏 (日本山岳ガイド協会認定ガイド)



国立公園で楽しむ親子の自然体験プログラムⅡ

「ナイトハイクと星空観察」

7月21日(土) 19:00~20:50 網張ビジターセンター集合

定員：親子 10 組 20 名 参加料：大人 500 円 中学生以下 300 円

協力：盛岡市子ども科学館

市民火山教室

「三ツ石山の成り立ちを探る」

6月30日(土) 7:30~15:00 奥産道大松倉橋-ト前集合

定員：15 名 参加料：大人 800 円 小学生 400 円

講師：土井 宣夫氏 (岩手大学地域防災研究センター 特任教授)

小岩井農場まきば園と盛岡市子ども科学館との連携行事

「夏の網張の森ヒメボタル観察会」

7月11日(水)~17日(火)

19:40~20:40 網張ビジターセンター集合

定員：各 20 名 参加料：小学生以上 300 円



◆ 現在開催中の網張ビジターセンター企画展 ◆
～ 5月1日から6月30日までビジターセンター展示コーナーにて ～



— 工藤 宏写真展 —

「岩手山の花」

・ ・ ・ 現在 200 種類以上撮影している一部の花の写真を展示します。7 月 1 日は岩手山の山開きで登山と花の観察・撮影の季節になります。登山と山の花に興味のある皆様方に少しでも参考になれば幸いです。 ・ ・ ・ (ご本人のあいさつより)

秋田駒ヶ岳の火山活動の高まりに注意しましょう!!

今年になってカルデラ付近で低周波地震と火山性微動が発生しています。登山の際は必ず、事前に火山活動情報を確認しましょう。

- 気象庁HPで火山活動チェック
- 入山届記入
- 登山の際はヘルメットの携行
- 登山中に異常を感じたら退避



写真提供：中山 大太郎氏

モモンガのつぶやき

先日、近くの三角山に地元のグループと一緒に登る機会があり、その時に年配の方が「昔は周りの山の雪形を見て、田畑を起こしたり種を蒔いたりしたものだ」と話していましたが、最近の若い人達はそんな風習を知らない人が多いそうです。新緑が一日一日色を濃くし秋田駒ヶ岳の稜線に「駒の雪形」がくっきり見えるこの頃、麓でも田植えが始まりました。(たくちゃん)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆3月 1, 526人 ◆4月 1, 121人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆3月-2.5℃ ◆4月2.8℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期(4月から10月末まで) 休館日なし 9時~17時